

## 市長定例記者会見 概要

■日時：令和3年2月15日（月）午前11時から午前11時55分まで

■場所：市庁舎5階第4会議室

■相手方出席者：神奈川新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、東京新聞社、毎日新聞社、共同通信社、テレビ神奈川、ジェイコム湘南・神奈川、時事通信社、日本経済新聞社、タウンニュース社

■市側出席者：市長 桐ヶ谷 覚、副市長 柏村 淳、経営企画部長 福井 昌雄、経営企画部担当部長 福本 修司、総務部長 田戸 秀樹、市民協働部長 岩佐 正朗、福祉部長 須藤 典久、環境都市部長 石井 義久、環境都市部担当部長 芳垣 健夫、教育部長 村松 隆、消防長 林 行雄、財政課長 山田 悟史

■陪席者：企画課長 仁科 英子、広聴広報係長 西 久美子

■配付資料

- ・逗子市令和3年度の重点的な取組み
- ・令和3年逗子市議会第1回定例会の招集について
- ・令和3年度逗子市当初予算案の概要
- ・新型コロナウイルス感染症による自宅療養者への生活サポートなどの実施について
- ・パルスオキシメーターの貸与について【補足資料】
- ・令和3年度新型コロナウイルス感染症対策経費について【補足資料】

■内容：下記のとおり

### 【企画課長】

定刻になりましたので、逗子市長の定例記者会見を始めます。まずはじめに、市長から発言をさせていただきます。

### 【市長】

本日、令和3年第1回市議会定例会の招集告示を行いました。

案件は、お手元のプレスリリースにあるとおり、令和3年度の予算案をはじめ、1件の報告、21件の議案を予定しています。議案の内容につきましては、後程プレスリリースをご覧ください。

令和3年度の当初予算案について説明させていただきます。

「令和3年度逗子市当初予算案の概要」をお手元にお配りいたしました。

資料の1ページになります。令和3年度当初予算は、一般会計が過去最大規模となる203億9,700万円となりました。過去に200億円を超えた年度は、平成16年度の200億1,856万1,000円のみです。平成16年度は減税補填債の借り換え等のためと聞いています。増加要因は、前年度との比較で、人件費1億900万円、扶助費2億2,100万円、物件費3億

3,800万円、投資的経費4億6,600万円の増加などです。

次に、歳入の中で市税収入の減少についてご説明します。

資料の3ページから5ページになります。市税全体では、前年度当初予算に比べ約2億5,000万円、率にして2.7%の減少を見込んでいます。

主な税目では、市民税は給与収入の減少などの影響を勘案し、前年比1億7,400万円、率にして3.5%の減少を見込んでいます。固定資産税は、固定資産の評価替え、固定資産課税の特例措置の影響を勘案し、前年比約6,300万円の減少を見込んでいます。

次に、財政調整基金の状況についてご説明します。

令和元年度末の残高は、15億7,200万円でした。令和2年度当初予算に財源調整のため3億円の取崩しを計上していました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、その対策費用として6億円を財政調整基金からコロナ対策の基金に積み替えました。結果、残高は6億7,200万円となりました。今回定例会に提案する令和2年度補正予算において、前年度剰余金などを財政調整基金に積立てる金額として、12億5,200万円を計上いたします。合わせまして、令和2年度末残高見込みは19億2,400万円となります。

令和3年度当初予算では、市税の減収2億5,000万円などの影響により、取崩しをさせていただきます。昨年度は3億円の取崩しでしたが、今年は2億5,000万円上回り、5億5,000万円の取崩しを計上しています。令和3年度の財政調整基金の残高は13億7,400万円です。スタートするという事になっています。

#### ○危険な崖地対策の強化

令和3年度の重点的な取組みのうち、令和3年度に実施するものとして危険な崖地対策の強化を予定しています。

昨年は、崖崩れに巻き込まれ2人の尊い命が失われるという、悲しい事故が発生しました。令和3年度当初予算では、崖崩れ対策に係る費用として2億3,100万円、前年度当初予算と比較して1億6,100万円の増額を予定しています。これによって、令和2年度補正予算での対応と合わせ、緊急的に対策が必要な箇所の工事は終了しますが、今後も対策が必要な危険箇所を把握した場合には、早急に対応していきます。市有地については、緑地法面防護工事や緑地管理伐採など5,200万円、令和元年度の崖地の現地調査で要対策箇所としている3か所の対策工事2,900万円を、民有地にかかるものとしては、崖地の防災工事助成金800万円、危険木の伐採工事助成金100万円ほか、急傾斜地崩壊対策事業には神奈川県と連携し1億4,100万円を計上しています。

#### ○交通渋滞対策の検討着手

いま、逗子市内はかつて以上に渋滞が頻発している状況です。かつては夏場や雨天時には混むということでしたが、日常的に渋滞が発生している状況と見受けられます。そこで、JR逗子駅周辺をはじめとする主要な道路の渋滞対策のための予備調査に400万円、JR逗子駅

前の歩行空間等の向上のための基礎調査に 252 万円計上しています。

#### ○公共施設の老朽化対策の財源の検討

就任以来、公共施設の対策について説明を受けてきました、総額にしまして約 100 億円程度要する、そして所管課から予算要求があっても、予算編成が出来ないため長寿命化対策については先送りされているという現状です。

今年も 1 億数千万円の予算計上をしましたが、緊急的なもの以外には手を付けられない状況です。100 億円の改修対策に対して何年かかるのかと危機感を持ちました。そこで、いま考えていますのは、しっかりと財政調整基金を積み上げたならば、財政調整基金の中から翌年度以降に一定割合を長寿命化対策に振り分けていく、そういった予算編成をしていくという考え方で進めてまいりたいと考えております。そのために令和 3 年度中に議会にもご理解をいただきながら、公共施設の長寿命化に対してはしっかりとの方針のもとに取り組んでいきたい。場当たりでは対応できないと考えているところです。その方向性について検討を加えていきたいと考えます。

#### ○中学校給食の食缶方式への移行準備

第 4 回定例会でも中学校給食をボックスランチ方式から食缶方式に切り替えると発表しました。時期は令和 4 年度中には実施をするということで所管に伝えてあります。昨年 10 月に愛川町の食缶方式がスタートしたということで視察に行かせていただきました。愛川町の場合は、平成元年と現状では小学校の人数が半減したということで小学校の調理室が空いている、そこで中学校分を賄う親子方式で実施をしています。逗子市はさまざまな課題があり、この親子方式は無理だろうと思います。概ね 70% 台の減少ですので愛川町ほど小学校に空きがなく、その中での親子方式は無理であると考えています。調理方法も含めて検討し、令和 4 年度中には実施をしたいと考えています。エレベーターを設置するという話もありましたが、愛川町を視察した時に女の子が食缶を持ったまま 3 階まで素早く上がっていました。エレベーターがあるとそこに渋滞が発生するくらいで、何よりも難しいのは授業の時間を延長させないで食缶方式に取り組めるかが最大の課題と考えます。いま、食缶がものすごく良くなっていて、2 時間経っても 4℃ しか下がりません。皆さんお使いの水筒魔法瓶のようなものですが、試食をさせていただいた時も蓋を開けたら湯気が立つくらい温度が全く下がっていない。そして、女の子でもエレベーターを使わずに上られるならば実現をしたいと考えたところです。決定的な理由は、子どもの笑顔が何物にも代えがたい。「おいしい」と訊いたら、弾けるような笑顔で「おいしいです」と言っていました。そういう給食を実現したいと考えています。

次に、新型コロナウイルス感染症対策としましては、予算規模としては、5,965 万 4,000 円を計上しています。大きなものとしては、住宅確保給付金が 3,197 万 9,000 円、東京 2020

オリンピック・パラリンピックの開催に係るものが2,272万3,000円です。その他は、感染症対策の消耗品等の内容となっていますが、感染症対策、市内経済の回復への取組みについては、新型コロナ基金や国の令和2年度3次補正予算による地方創生臨時交付金、概算見込みとして1億8,000万円ですが、これらを活用しながら、状況を判断し進めていきます。なお、当初予算としては、新型コロナ基金からは、1,285万6,000円を充当しています。国の令和2年度3次補正予算による地方創生臨時交付金なども有効に活かしていきたいと考えています。

その他に2点お知らせします。

#### ○新型コロナウイルス感染症による自宅療養者への生活サポートについて

新型コロナウイルス感染症による自宅療養者に、食事の提供やゴミ出しの支援、パルスオキシメーターの貸与を行います。保健所からは実際に市内に何人の自宅療養者がいるかは公表されていません。ですので、手上げ方式で、困られた方に市に電話をかけてもらい、サポートをさせていただくということになります。神奈川県が実施する配食サービスが開始されるまで3日程度かかると聞いています。初日から3日までの間を市としてサポートさせていただくことを考えています。

ゴミ出しの支援は、週1回程度の戸別収集の支援を行います。パルスオキシメーターの貸与については、不足していると聞いていますので、そういった場合には逗子市から貸与させていただくという考えです。明日、2月16日から開始し、福祉部社会福祉課地域共生係が窓口となります。社会福祉協議会と連携しながら食事の提供等を考えていくということで準備をしています。

#### ○新型コロナウイルス感染症に関する情報発信について

2月13日までは感染者ゼロが9日間続きました。ほっとしているところですが、1月は大変な感染者数になっていました。10万人あたり1週間の新規感染者数が25人を超えるとステージ4だと言われています。逗子市は1月1カ月で128人感染しました。最大の週は50人になった週もあります。それを人口57,000人で割り返すと、その時は東京都よりも悪化していました。とてつもない数字になっていました。このように直近1週間の新規感染者数を、市内広報板に貼ろうということで準備いたしました。逗子では感染者が増えているという情報だけでは、感覚的に逗子は大丈夫だろう、10人20人の感染者数ではレベル4ではないのではないかと思いがちですが、数値を見てみると大変なことでした。市内の広報掲示板を活用しながらしっかりと市民の皆様に情報をお伝えしていきたいと考えました。

また、防災行政無線について、声優を使うと非常に聞きやすいという他のまちのニュースを私も見ました。そこで山田姉妹にお願いしまして13日の土曜日から始めました。逗子市の広報大使であります山田姉妹のメッセージは、土曜日・日曜日は11時に、毎週水曜日は15時に流します。私のところには大変聞きやすいということも伝わってきていますし、一

定の効果はあるかと考えています。

私の方からは以上であります。

**【企画課長】**

それでは、質疑をいただきたいと思いますが、まずは、幹事社からお願いします。

記者) 市税の減少を見込みつつも 200 億円超えの予算ですごいなと思ったのですが、金額が一番多く使っているのは土木費というか、崖地対策ということですか。

市長) はい。

記者) 財政調整基金を取り崩してもやらなければいけないのは、去年頻発した事故を受けてということですか。民有地の支援というのは鎌倉市に似たようなものがあって、どこを参考になさったのですか。

市長) はい。崖地対策については、昨年、職員による点検を行いました。目視です。今年も同じ職員が同じ個所を見る、定点観測するというので、今年も目視をしています。ただ、目視には限界があると考えています。やらないよりは目視でもやれば、市民にとって安心はあろうと思いますが、いつまでも目視だけで安全を担保できるのかということには、私も危機感を持っております。いずれ、現代の様々な技術を活かした安心できる予知管理というものを、今後取り入れていかなければならないと考えておりますが、そういったものが確立するまでは、やむを得ず目視でも、まずは続けていきます。やるべき仕事に関しては、予算化してでも実施していくという考えであります。民有地の補助については、1 物件あたり 80 万円でした。80 万円では市民の皆さんの動機付けにはならないと考えておまして、200 万円まで上げさせていただきました。鎌倉市等はものすごく大きな金額を出されているようですが、そこに至った理由はそれまでの工事額のほぼ 2 分の 1 が出せるという見通しがあったので、民有地対策は 200 万円当面やらせていただきたいと考えています。その件数は令和 3 年度は 4 件、800 万円となりますが、さらに追加が必要な場合は補正予算などで対応していくべきと考えておまして、崖地に対しては行政としても積極的に取り組むという姿勢は示していきたいと考えているところです。

記者) 新型コロナウイルスについてですが、資料の「逗子市当初予算案の概要」では、どれとどれに当たりますか。

経営企画部長) 令和 3 年度としては、全体額として 5,965 万 4,000 円です。住宅確保給付金が 3,197 万 9,000 円、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの感染予防策に 2,272 万

3,000円、これが主なものです。ただ、今回の補正予算で令和2年度のお金を繰越し、ワクチン接種に約4億円です。あと、これから交付される国の令和2年度3次補正、これが令和3年度に約1億8,000万円使いますので、今後、令和3年度の補正予算で対応していくというかたちになります。

記者) 住宅確保給付金が逗子市としては目立つかたちですか。

市長) 逗子市として補助を付けたりしましたので、3ヶ月で基本的には期限が来るということですが、継続して保証するということになっておりますので、当分の間、対策として行わなければならないと考えているところです。

記者) コロナの関係で、資料「逗子市令和3年度の重点的な取組み」にあります、1,285万円について説明してください。

経営企画部長) 1,285万円は、いまお話しした5,965万4,000円のうち純粋に市が出す金額、新型コロナ基金から出す金額です。

記者) 市が負担する部分ですか。

経営企画部長) はい。

記者) 他の自治体では、いろいろな施策の中のコロナの費用を積み上げている自治体もあるようですが、逗子市の5,965万4,000円はそれと同じと考えて良いのでしょうか。

経営企画部長) 先程申し上げた、住宅確保給付金と東京2020オリンピック・パラリンピックの感染予防は主なものですので、それ以外も積み上げたものが5,965万4,000円です。そのうち、新型コロナ基金を充当しているものが1,285万6,000円という内訳です。

記者) 自宅療養者の生活サポートについて伺いたいのですが、手挙げ方式ということは、どうやって皆さんが知ることができるのですか。保健所からお知らせするのですか。

福祉部長) 神奈川県がパンフレットを渡す際に、一緒に市のチラシを添えていただいで周知していきたいと考えています。

記者) 気付かない人がいるということは、基本的にはないということですね。

福祉部長) はい。ないです

記者) パルスオキシメーターは、いくつでしょうか。

福祉部長) いまは1台しかないので、発注をかけています。ただ、医療用の認証されたものでなければいけないので、少し納品が遅れているという情報が入っています。神奈川県も40歳以上には基本的にお渡しして、40歳以下は医師が必要があるとすればお渡しいただけるので、1、2週間はしのげるのではないかと思います。発注は5台かけています。

記者) 事業者が対応するのではなく、自治体の方が対応するのですか。

福祉部長) はい。もしそういう方がいらっしゃれば社会福祉課にご連絡いただき、お渡しする時は玄関でブザーを押して、本人の確認が取ればそこでお渡しします。

市長) コロナの基金につきましては、昨年早々に6億円積ませていただいて、今現在2億円使い4億円が残としてあります。当初、なぜ4億円残したかと言うと、ワクチン接種に自費の分があったなら、それを市が補填しようと考えて4億円を残していました。結果的には国が全額負担ということになりましたけれども、さまざまな漏れる部分もありまして、そういった費用に関しては基金から充当するというので、大変運用が楽になっています。基金を積み上げていない行政があると思いますが、都度、承認をいただく、もしくは即決で進めていくということになるかと思いますが、基金からの予算組みが出来ていますので、大変助かっているところです。例えば、看護師が不足しているのですが、看護師を特別に委託するといった場合にも、基金を財源に準備が出来るようにしようと考えているところであります。4億円使えば良いというものではありませんが、基金を積んだことは政策上有効であったなと思います。

記者) ワクチン接種に向けた体制ですとか、スケジュールについて、逗子市独自のものがあれば教えてください。

市長) かなり早く特別チームを作り、既に動き出しているのに、うちはPR下手でして、一向に表に出てこないのですが、特別チームを作って、最終的には8人の体制で動きます。医療チーム、管理チーム、広報チームと分けるべきと考えます。例えば、集団接種するとなると、どういうレイアウトで、どういう交通渋滞が起こり、混乱が起こるか考えなければいけません。また、これを市民にしっかりと告知していくには広報が必要でありまして、別冊広報ずしを使いながら周知しようと考えますが、広報チームも内部で作るべきと考えます。シミュレーションをしてみても、1人、2分で打つんです。時間当たり30人です。これは本

当に大変なことだと思います。前さばきの部分があり、打つだけだったら2分で打つことは出来るでしょうが、前さばきの問診込みの2分ということは、相当前が広いところで問診をしていかないと流れないだろうと考えています。当初、集団接種だけでは無理だろうと考えていまして、私は診療所の皆さんの体制をどう組んでいくかということが大事だと考えました。当初は出来なかったのですが、いま練馬方式ですとか、かなりそちらが主となり動いてきているので、医師会とも非常によく連携が取れています。個別接種も含めて準備を入念にしているところです。最悪のケースを考えました。一人しか医師が手挙げをしないと、問診をして15分かかった場合、1時間当たり4人と仮定すると、1日30人、逗子の57,000人が2回打ち、7割としても8万回、13年かかるということになります。どれだけ診療所の数を増やしていけるか、半年で行うには35軒の診療所にご協力いただくというシミュレーションの結果を持ちました。そういうものも含めて、医師会と準備を詰めているところです。しかしながら、国からのさまざまな指針が都度変わる状況ですので、あらゆる方策に対応できる準備を進めていって、スムーズに進めます。

庁舎一階にワクチン窓口を設けたいと思っています。3月16日からを予定していますが、3月の初めに別冊広報でワクチンについてのご案内を流し、確定申告の窓口が終わってからワクチン窓口を設置し、そこでの対応もしていくと考えておりまして、少しでも市民の皆さんに不安が無いようにどうやっていくか、そこに向けて準備をしていきたいと考えます。

記者) 予算編成での苦労というところですが、市税の減少はコロナの影響かと思いますが、一方で、200億円規模の過去最大の予算編成ということで、編成する際の苦労や工夫した点があったら教えてください。

市長) 減収はどの行政も苦労していることと思います。逗子市におきましては、法人市民税が少ない、それをどうやって上げるかということ、これまで考えてまいりました。法人市民税が県下2番目に低く、もともと2億7,000万円しかないものですから、減りようがないというのは編成上、助かりました。問題は、この先です。

昨年コロナ対策で国から事業者に対してさまざまな支援が事業者に届きました。3月から返済が開始となります。最長で3年ですので、長い人はまだですが、短い人はこの3月から返済が始まります。いまの状況から返済が始まった時に、さらに業績が悪化するということが出てくると思いますので、令和3年度予算はなんとか減収も含め、組めたところですが、令和4年度の予算編成は大変厳しくなるだろうなと思います。今までは金融機関も保証協会が受けてくれましたので、金融機関は保証協会に振れば融資が実行でき、金融機関単独では1割くらいの負担額ですから融資が実現できた訳ですが、いま現在は保証協会もかなり条件を厳しくし始めていて、融資も厳しくなっていると聞いております。そうした中では、金融機関も保証協会に振れない分単独で判断し、融資の判断をするということになってきますと、これからが本当に厳しいところで勝負だなと思います。そういう意味では、今年は



ギリギリの予算編成をしましたが、令和4年度の予算編成は相当に厳しいものになってくるのではないかと、今から覚悟はしております。

記者) 今年ギリギリの予算編成だったということですが、何とかしたのは財政調整基金の取り崩しということですか

市長) そうです。職員も財政調整基金を意識して、無駄を少しでも省いていくというような積み重ねが財政調整基金の結果に表れていると思います。個人的には財政調整基金はものすごく大事だと思っていまして、無駄を省いた分は財政調整基金に積んで、財政調整基金から安定した施策をどのように打っていくか、それが先程お話しした公共施設の長寿命化に対しても原資になってくると考えます。

記者) 庁舎にコロナのステージの表示をするということですが、いつ頃から始められたのですか。

市長) スタートしたのは1週間くらい前、先週です。感染のピークは過ぎていました。始めたときは危機的で、市民の皆さんに逗子市は大変な状況なんだということを伝えたいと思っていたら、9日間感染者ゼロが続いたので状況は好転しました。そういう意味では少し遅かったのですが、ステージ4などが出ないということが一番だと思っています。

記者) 市内に何カ所貼るのでしょうか。

市長) 62カ所です。

記者) 市の施設ですか。

市長) 市内に広報掲示板があるので、全部に貼る予定です。

記者) オリンピックについて伺います。スペインのホストタウンとして「競技の普及啓発及び気運醸成を図る」とありますが、予算参考資料の131ページに具体的に内容が書かれているようですが、まだ開催されるかどうかははっきり分からない状況で、チームの歓迎会や交流会をこのくらいにやりたいとか、はっきりと目途が立っていない状況と考えてよろしいでしょうか。

市長) まだ詳細は詰めておりません。恐らくスペインチームも試合の前にそういった機会は避けたいと考えていると思います。ですので、交流そのものもレースが終了した後でどのよ

うにするかということも含めて準備をしていると聞いております。状況が本当に読めない  
ので。

記者) 先日、応援動画というかウェブ上での交流は続けられていると思いますが、コミュニ  
ティライブサイトに 500 万円くらい計上されていますが、ウェブサイトを運営するのです  
か。

市長) 当初考えていたのは、レースそのものは洋上で行われていて見えないので、パブリッ  
クビューイングのようにして陸にいながらレースを見られないか、そのために準備をする  
ことを計画していました。映像そのものが配信を受けるということになってきますので、詳  
細は詰め切れない状況です。そのための準備はしていくと考えております。

記者) いつ頃が準備のデッドラインでしょうか。

市民協働部長) はっきりとは分かっていませんが、放映権についても、実際に東京 2020 オ  
リンピック・パラリンピックが行われるとなった時にこちら準備を開始しなければなら  
ないと考えています。先程、市長がおっしゃったとおり、その辺りの状況が全くはつきりし  
ていないというのが現状です。

記者) ワクチンですが、予約方法だったり、35 軒の診療所が必要という点で、オーケーが  
いただけているのがどのくらいか教えてください。

福祉部長) 受付方法ですが、アプリと LINE、これがどちらになるか最終段階に来ています。  
予約はそういった形で受けさせていただいて、お使いになれない方は電話での予約になっ  
ています。相談窓口でアプリや LINE の操作が出来ない方にお教えできる体制を取っていき  
たいと思っています。今日もこれから医師会とお話しをするのですが、正確にいくつくらい  
手が挙げているというのはまだ最終の集計になっていません。ただ、だいぶ手を挙げてい  
て集団接種にも来ていただける、また、個別のサテライトの位置付けにもしていただける  
というところでは、だいぶ手が挙げていると聞いていますが、しっかりとした人数はまだ確  
定していない状況です。

記者) コロナの自宅療養者の生活サポートですが、県内で他に行っている自治体はありませ  
んか。

福祉部長) 海老名市、相模原市、あと二つの町がやっていると聞いています。ただ、内容が  
少しずつ違ってはいます。

記者) 鎌倉市で花火大会が中止になりました。今年、逗子はどうする予定ですか。

市長) 中止の予定です。昨年も中止にさせていただきました。理由は、オリンピックが開催される場合、葉山港にオリンピック関係の船舶が入ってきて台船が置けないということがあります。今年も同様の状況でありましたので、当初からオリンピックがある限りは花火の検討は出来ないということで中止となっております。

記者) 1年でも中止ということは残念なことではあるのですが、2年中止となるとこれまでに付いてくださったスポンサーの方ですとか、運営を担う人のノウハウが失われるとか、そういう懸念はありますか。

市長) それもあろうかとは思いますが、コロナがこういう状況の中、やるとなると5月末でするので、花火師さんとの契約などの準備が1月くらいには始まります。そういったことを考えると、やろう、やるまいというのはそう簡単に出来なくて、やむを得ず今年に関しては中止にして、皆さんにやるかやらないかで、やきもきさせるのは得策ではないと考えました。来年やりましょう。

記者) 似たようなことで恐縮ですが、海水浴はいかがですか。

市長) 所管の方には両面で準備をするようにと指示をしています。昨年も同様に両面で行ってきました。結果的には開設せずということになりましたが、事前準備があった分、逗子市としては混乱なく進められたのかなと思っております。海岸組合の方ともそういう考えで、彼らはやるべく準備はしていますけれども、状況によっては出来ない状況もあり得ると含みを持たせたうえで話を進めているところです。

記者) 昨日の地震で、逗子市内で山が崩れたりなどはなかったのでしょうか。大丈夫ですか。

環境都市部担当部長) 現場の職員で今朝から見っていますが、今のところそういったことは無いようです。

市長) 地震で揺れて雨で崩れてというところとまずいなと思いましたが、今のところ大丈夫のようです。

他にございませんか。逗子市が最後の方ですよ。新聞を見ても他市も減収の幅がかなり大きく報道されていました。

記者) 他の自治体はリーマンショック並みと言っていますが、逗子市の金額はどういう見込みでだしているのですか。

財政課長) 市税については令和2年度の課税状況、勤労統計調査などを使用しまして、神奈川県内・東京都内の給与収入の動向などを勘案した結果、マイナス2.7%と見込んでいます。

記者) リーマンの時並みとか、いつぐらいの水準などがありますか。

財政課長) 数字が単純な比較ではないので、額だけの減り幅がリーマンショック並みかということは手元に資料がありません。

(企画課長)

よろしいでしょうか。それでは本日の記者会見を終了いたします。  
どうもありがとうございました。

市長) どうもありがとうございました。